

枕崎市はかつて「台風銀座」といわれていたように、「枕崎台風」や「ルース台風」をはじめ、411人が犠牲になった「黒島流れ」など、過去の歴史において台風による災害を多く受けてきました。また、昨年の8月に九州を縦断した台風15号では、最大瞬間風速45メートル以上の猛烈な風が吹き、さらには高潮により旭町を中心に家や工場が浸水するなどの被害を受けました。



▲1951年に本市を襲ったルース台風は、死者27人、3,223戸全半壊という甚大な被害をもたらした。

### 経験を生かす

5月22日、旭町、泉町、新町、恵比須町の各公民館を対象にした災害図上訓練が、市民会館で開催されました。訓練には各公民館や地元消防団、女性消防団、婦人防火クラブから約60人が参加しました。



▲図上訓練で問題点などを出し合う参加者

して、災害が起きた場合に安全に避難所まで行くためのルートの確認や、注意点等についてお互いの意見を出し合いました。旭町公民館長の大江辰也さん(69)は「昨年の台風15号では台風に対する備えはしていませんが、高潮については全く想定はしてませんでした。満潮の時刻と重なって夜中に高潮が上がってきた。周囲は暗く、状況を確認することはできません。夜が明けて確認に回ると、海岸沿いの住宅や軽井工場では浸水被害があり、倒壊まではいきませんでした。屋根の一部が飛んだりする住宅もありました」と振り返ります。



旭町公民館長  
大江 辰也さん

昨年の被害を受け、旭町公民館では11月に旭町自主防災会を組織しました。「自主防災会を組織して、住民それぞれに役割が与えられたことで意識も変わってきたと思います。緊急時の連絡表も作成し、各家庭に配布しています。今後も消防署等とも相談をしながら今回のような訓練

たら、市役所または消防署にご連絡ください」と、永留署長は「自助・共助」の大切さを訴えま

### 防災マップの活用を

市では、万一の場合にあわてず落ち着いて、より安全に避難できるように「枕崎市防災マップ」を作成し、平成25年に市内全家庭に配布しています。防災マップには災害危険地域や津波対応マップのほか、災害時の避難所、避難時の心得など防災に関するさまざまな情報が

掲載されています。防災マップを活用し、日ごろからいざという時のための避難所や危険箇所を確認し、災害に備えるようにしましょう。

また、地域でもこれから実施されるさまざまな訓練に積極的に参加し、その経験をもとに多くの意見を出し合い、「災害に強い枕崎市」の実現に向けて、一体となって取り組みましょう。※防災マップを持っていない世帯は、総務課危機管理対策係までお問合せください。防災マップは市ホームページからダウンロードすることもでき

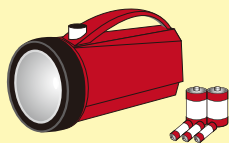
ます。  
問合せ 総務課危機管理対策係  
TEL 72-1111(内線214)



## 避難時持出し品

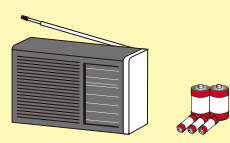
最低限そろえておきたい

### 懐中電灯



できれば1人に1つ用意。予備の電池と電球も忘れずに。

### 携帯ラジオ



小型で軽く、AMとFMの両方を聞けるものを用意。予備の電池は多めに用意を。

### 非常食・水



カンパンや缶詰など火を通さずに食べられるものを。水はペットボトル入りのミネラルウォーターがよい。乳幼児がいる場合は粉ミルクなどを忘れずに。

### 貴重品



現金、預金通帳、印鑑、免許証、健康保険証など。現金は10円硬貨も(公衆電話の利用に便利)。

### 救急薬品・常備薬



キズ薬、絆創膏、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば忘れずに用意を。

### その他



ヘルメット、衣類、タオル、軍手、ビニールシート、ティッシュ、ビニール袋、生理用品、紙おむつなど。

## 緊急時に防災無線が自動的に起動 全国瞬時警報システム(J-ALERT)

ジェイアラート

全国瞬時警報システムとは、緊急地震速報やテロ攻撃などの対処に時間的余裕のない緊急事態が発生した場合、衛星通信ネットワークを用いて瞬時に送信し、市の防災行政無線を自動的に起動し、警報を瞬時に伝達するシステムです。

自然災害では、緊急地震速報(震度4以上から)、大津波警報、津波警報が発令されたときに放送されます。これらの情報が放送されたときは、テレビやラジオをつけて情報に注意し、身の安全を確保して落ち着いて行動するようにしましょう。※詳しい内容については、「枕崎市防災マップ」に掲載されています。



## 市内の避難所 危ない! と思ったらすぐに避難

### ◎避難所を確認しましょう

#### ●第1避難場所(台風・大雨・洪水等)

避難予定場所	避難地区	所在地	電話
健康センター	枕崎地区	日之出町231	72-7176
市民会館	枕崎地区	千代田町114	72-2221
松之尾センター	枕崎地区	汐見町260	72-9289
立神センター	立神地区	大塚南町129	72-1693
別府センター	別府地区	別府東町574	76-2010
城山センター	桜山地区	桜山町256-1	72-2267
妙見センター	枕崎・桜山地区	寿町186	73-1727
金山センター	金山地区	田布川町463	72-9690

# 地域ぐるみで 災害に備える

災害に備えるため、私たちは何をしたらいいのでしょうか。枕崎市消防署の永留正文署長に話を聞きました。「災害に備えるに当たり、いちばん大切なのは自分たちの住んでいる地域をよく知ることです。どこに危険箇所があるのか。避難する時に補助が必要なのか。どこに住んでいるかなど、住民どうして地域の情報を共有し合うことが重要です。各組織で定期的に訓練を行っていたら、そういった情報を確認しあつてほしいと思います。災害が発生した時は、市や消防団が防災無線や広報車で情報を知らせますが、残念ながら行き届か

い部分もあります。災害が大きくなればなるほど市や消防などによる「公助」は行き届かなくなる事も考えられます。そのような場合は、自分の身は自分で守る「自助」、地域住民がお互いに助け合つて地域の安全を確保する「共助」が被害をより少なくすることにつながります。また、自主防災組織がない公民館については早めの結成をお願いし、既に組織のある公民館については組織の充実を図っていただきたいと思っています。消防署も訓練等については積極的に協力しますので、ぜひご相談ください。また、危険箇所等を見つけ



枕崎市消防署  
永留 正文署長